

教育目標・学校像	「豊かな人間性と自ら学ぶ態度を育み、地域を支える産業人を育成する」
	(1) 専門的な知識・技能の習得を目指し、学ぶ楽しさや学ぶ方法を知り、将来に役立つスキルを身につける学校
	(2) 地域の交流や地域貢献を通して社会に役立つ人材を育てる学校
	(3) 自然を対象とした学習を中心に豊かな人間性をはぐくむ学校

重点目標・評価項目	ア 魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。 ○わかる授業の実践 ○学習習慣の確立 ○資格取得の向上
	イ 自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。 ○進路指導の充実 ○部活動の活性化 ○地域連携活動の推進
	ウ 規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。 ○早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活の確立により、遅刻・欠席・早退の縮減 ○時間厳守による充実した学校生活 ○挨拶の励行により活気のある学校

各部等の自己評価

		重点目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】	
重点目標		魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。	わかる授業の実践	2.9	教材研究を充実させ、さらに「わかる授業の実践」に努める必要があるため、その時間を確保するべく、働き方改革も推進したい。
			学習習慣の確立	2.6	学校での指導だけでは限界があるため、家庭学習の実施も含めて、家庭における指導についても検討を進めたい。
			資格取得の向上	2.6	受験者数の向上とともに、合格者数の向上についても並行して検討を進めたい。
		自己実現を図るために、校外活動等への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。	進路指導の充実	2.9	これまで以上に充実した指導を展開するため、学科、学年、教科等の連携を積極的に進めたい。
			部活動の活性化	2.7	活動内容の活性化とともに、加入率の向上についても並行して検討を進めたい。
			地域連携活動の推進	2.9	今後の活動をより良いものにするため、学科だけではなく、学年や教科等の連携を積極的に進めたい。
		規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナー等の社会性、社会的自己指導能力を育成する。	早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活の確立により、遅刻・欠席・早退の縮減	2.5	遅刻・欠席が多く見られるため、継続的な指導を組織的に展開したい。
			時間厳守による充実した学校生活	3.0	学校生活における時間厳守は遵守できるようになってきたため、これらを遅刻・欠席の改善に結び付けたい。
		挨拶の励行により活気のある学校	3.1	外部の方から高評価をいただいているが、今後は校内においても積極的に相互の挨拶が励行できるよう指導を進めたい。	
		努力目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】	
教務部	重点目標関連	新しい学習指導要領に基づく魅力ある授業の実践に向けた環境整備	新しい学習指導要領に基づく魅力ある授業の実践をするため、研修や各種情報提供等を実施する。	2.9	教務部としての働きかけや各種情報提供について実施した結果、各教科においてもそれらを情報共有し、魅力ある授業の実践に向けた環境整備を実施することができた。今後は学習指導部等と連携した研修等を実施し、さらに魅力ある授業が実践できるように環境整備を進めたい。
		地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに向けた情報発信	保護者や生徒、中学生及び関係機関への情報発信に向け、学校Webページや一斉メール、学校パンフレット等を活用して情報提供や連絡を実施する。	2.9	学校Webページや一斉メール等を活用し、情報発信や情報提供を積極的に実施することができた。今後は地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに向けてさらなる情報発信を行い、本校の「よさ」や取り組みについて広く周知したい。
	それ以外の事項	学校教育目標達成に向けた機能的な学校組織確立に向けた環境整備	スクールポリシー策定やESD教育、タブレットPCの活用を含めた本校ならではの教育作りに向け、各種情報提供や連絡・調整等を実施する。	2.7	スクールポリシー策定やタブレットPCの活用を含めた本校ならではの教育作りに向けた環境整備を計画的に進めることができた。今後はESD教育の実施をさらに推進できるよう環境整備を進めるとともに、タブレットPCの積極的な活用に向け、情報管理部等と連携した生徒向けの講習等を検討したい。
		教育活動円滑化に向けた環境整備	働き方改革を踏まえた教務事務の効率化に向け、各種取り組みを推進する。	3.0	会議資料のペーパーレス化や、学校行事の見直し等、教育活動円滑化に向け、働き方改革を踏まえた取り組みを推進することができた。今後は校務支援システムの有効活用等を検討したい。
情報管理部	重点目標関連	GIGAスクールタブレット端末の管理・活用	1人1台のタブレット配布に伴い、端末を朝の学習や授業、学校行事に積極的に活用する。また、管理について指導する。教職員に対しては、現職教育を実施し、利用を促進する。	3.2	朝の学習や授業、学校行事での活用に関しては機会を増やすことに一定の効果があった。一方で、さらなる活用が見込める状態でもある。活用のためにも充電を含めた管理の指導徹底、教職員へのさらなる研修機会の充実が今後の課題となる。また学習指導部ともより一層連携を図っていく必要がある。
		校務支援システムの活用・周知	各部や各学科と連携をとり、出欠管理や成績管理、進路等への活用につけるとともに、各職員が活用できるように活用方法を周知する。	3.1	出欠管理や成績管理等、システム自体が不十分な仕様になっている点もあり、改善が必要である。試行的に運用しているものもあり、教職員への研修や説明をより充実させることが今後重要になる。
	それ以外の事項	学校HPを充実させ、学校内外に対する情報発信の手段としての有効活用	一斉配信メールの内容を連携させ、迅速にHPに掲載する。見やすいHPを心がけ、バナーの位置等を改善する。	3.1	ホームページの更新頻度に課題が残った。更新頻度自体も下がっているが、学科・係・部活等による差も大きい。更新担当者の分担やホームページ自体をより良いものへと改良していくなどの取り組みをしていく必要がある。
		貸し出し用PC、プロジェクター、スクリーン等の貸し出し状況を把握する。	貸し出し簿の整備を行うことで、貸し出し状況を可視化する。	2.8	貸し出し簿があまり機能していない状況になっていた。備品の返却に関して声掛けをしても戻ってこないことも多い。県全体でも情報関係の備品の紛失が発生していることから、管理方法の見直しと教職員の意識改革が必要となる。

学習指導部	重点目標関連	授業・実習の充実	(1)授業時間の確保のため、始業時間・終了時間の厳守する。 (2)ICTなどを活用して、分かる授業・魅力ある授業の展開を図る。	2.8	・おおむね良好であるが、1時間目の授業や実習後の授業に遅れる生徒がいるため改善が必要である。 ・ICT機器を活用した授業が増えてきている。今後も授業におけるICT機器の活用を推進し、生徒の興味関心を高める工夫をする必要がある。
		基礎学力向上のための取り組み	朝学習の効果の実施に向けて、各学年の担当者や教科担当と連携し内容の改善と指導の徹底を図る。	2.7	朝学習でのICT機器の活用など、内容の改善に取組めた。しかし、朝学習の教材が準備できていないこともあった。教材の準備について役割分担の確認・明確化が必要である。
	それ以外の事項	資格取得率の向上	(1)HRなどを活用して、生徒への各種資格取得の周知および奨励する。 (2)資格取得率向上のため、放課後等を利用して指導の充実を図る。	3.1	学科を中心に、積極的な働きかけを実施した。受験希望者が少ないこともあるため、周知を徹底したい。保護者や生徒に3年間の見通しをもった情報提供をすることで、より早い学年から資格取得に取組めるよう指導していくことが必要である。
		プロジェクト活動や、ボランティア・交流活動の充実	(1)ボランティア活動の紹介と参加の奨励して、地域交流活動の充実を図る。 (2)各学科・団体のプロジェクト活動の充実を図る。	3.2	・ボランティア活動の案内が増えたため、積極的に参加する生徒が増えた。今後、更に充実させると良い。 ・各学科・団体のプロジェクト活動に積極的に取り組んだ。
生徒指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立	・遅刻が常習化している生徒への働きかけを強化し、規則正しい生活が確立するようなサポートを行い、遅刻者の延べ人数の減少を図る。 ・服装・容姿など、学校で定められた規則を遵守し、高校生としての正しい在り方について生徒の理解を深めさせ、自己指導能力を高める。	2.8	コロナ渦では、軽微な風邪症状についても欠席することが認められていた(認欠扱い)ため、この数年で欠席することに対するハードルが大きくなった。今年度は、その状況をかなり引き継いでおり、遅刻・欠席が多い。服装・容姿については、本校生としての自覚をもって正しくできている者が多い。
		教育相談体制の充実	・スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、早期対応に役立てる。 ・保護者と連携し、学校と家庭の支援が有効に行われるよう努める。 ・外部の関係機関との連携を強化する。	3.3	家庭の悩み、いじめ、自殺願望など、多岐に渡る複雑な問題に対して、迅速な対応をすることができた。家庭や関係機関との連携も密にできおり、次年度も継続していきたい。
	それ以外の事項	いじめや問題行動、ネットトラブルの防止	・教員間の情報交換の機会や連携を密にし、いじめや問題行動等の発生防止に努める。 ・いじめや問題行動等の未然防止の観点から、休み時間等の巡回指導を実施する。また、ネットトラブル未然防止のため、SNSの利用などの注意喚起を徹底する。	3.3	いじめ防止対策推進法に従い、些細なことでもいじめとして認知し、対応することができた。いじめ対策委員会も機能しており、いじめは「起こるもの」という認識が教職員の間でも定着してきている。他校の生徒指導部との情報交換のなかで、本校のいじめ認知件数は多く、本校は新たな法律に則して職務にあたる能够做到していることもわかっていて、また、SNSに対する監視には限界があるが、県のネットパトロールの結果報告などを活用し、重大事案に至らぬよう情報収集を行っている。
		交通規則の厳守やマナーの醸成	違反する生徒への指導を徹底し、指導を通して規則やルールを守れる生徒の育成を図る。昨年度施行の自転車に関する条例を遵守できる指導体制をつくる。	2.9	自転車に関わる条例のうち、「保険加入の義務」に関しては加入率100%を達成している。努力義務である「ヘルメットの着用」に関しては、声掛けはしたものの、浸透しなかった。自転車のマナーに関する苦情は近年、かなり減少傾向にあり、引き続き指導を継続していきたい。
進路指導部	重点目標関連	進学体制と就職体制の強化	進路指導部が中心となり、学科・学年・教科との連携を図りながら指導の分担を明確にする。	3.3	・情報がわかりやすく担任としても動きやすいと感じた。 ・明確な方向性が提示できたので、対応が比較的迅速にできた。 ・面接の練習を充分にせず試験に臨んでいる生徒が多かった。 ・進路指導に関しての学科、学年、教科の連携が足りない。
		キャリア教育の推進	生徒たちが「生きる力」を身につけ、社会の変化に柔軟に対応し社会人として自立ができるよう、学校活動と意図的に関連づけ教育を実践する。	3.2	・進路に向けた行動や考え方ができていない生徒が多く課題である。 ・進路規格のガイダンス等を利用し有意義な場を提供できた。 ・HR単位での時間の確保が難しく、細かな指導や段階的な指導が思い通りにいかなかった。学年として計画的に意図的な指導が必要である。
	それ以外の事項	進路先(大学等、企業)の開拓と情報の共有化	これまでの実績を基に計画的に進路を開拓するとともに、学科の関連産業を開拓する。また低学年から進路指導を実施し意識を高める。	2.9	・農業関連産業の就職者を出すことができ、少しずつ増えている。 ・学科によっては関連産業に直結しにくい所もあるので今後どのように上げていくかの再検討が必要である。 ・特に低学年からの指導に関して一部の職員の関わりにとどまり学科として十分に指導できなかった。 ・就職先にインターンシップ先が少ないことが気になった。
			生徒が主体的に情報を収集できるよう進路室の情報を整理し、進路について気軽に相談ができるような風通しのよい進路指導室の環境を整える。	3.6	・進路室の利用者が多くなっていると感じている。 ・昨年度よりも淘汰され生徒の使用ししやすい進路室の提供ができた。 ・年々わかりやすさ、見やすさが増していると思う。 ・生徒も職員もとても行きやすい進路室になってきている。
健康指導部	重点目標関連	健康管理意識の向上	受診勧告を学期毎に通知する。また、個別に受診勧告し、受診率が向上するよう働きかける。 早寝早起き朝ご飯について、機会のあるごとに啓発する。	3.0	・保健だよりを発行し、時期に応じた情報提供や啓発を行った。 ・精密検査や再検査が必要な生徒に対し、保護者あて受診勧告通知を送付した。 ・受診率向上を図るため、精密検査見受診の生徒に対して担任等と連携し受診の依頼を行った。(未受診生徒への対応が課題) ・今後は生徒の実態把握のため、睡眠時間や朝食接種状況など生活習慣に関するアンケート等を実施し、生徒の健康管理に関する意識向上につながる取り組みを行っていく。 ・アンケート結果や保健だよりをHP掲載するなど情報発信することで、保護者等と連携を深め、生徒の健康への意識向上、健康的な生活習慣確立につなげていきたい。
		生徒の安全指導に関する的確な指導	マラソン大会の安全な実施に向けて、十分に準備し全職員の協力で実施をする。 体育時での事前指導、観察や学校医等による生徒の健康状態の把握など事前準備の徹底。	3.0	・警備で十分に対応できなかった面はあるが、職員・PTA役員の協力のもと、安全にマラソン大会を実施することができた。 ・保健室、担任と体育科で連携を図り、事前に生徒の健康状態を把握し、事前健康診断糖の結果を踏まえ、健康面の対応ができた。
	それ以外の事項	防災意識の向上	災害への適切な行動ができるよう、生徒の意識を高める防災指導、避難訓練を行う。 定期的に安全点検を実施する。	3.0	・今年度は雨天時の避難を想定した避難訓練を実施した。今後は、屋外と屋内での避難訓練を交互に実施していく。 ・生徒の防災意識を高める指導については、内容・方法含め検討が必要である。 ・学期ごとに生徒と職員が確認する方法で安全点検を実施した。今後は保護者や専門家との連携を図り実施していくことも検討する。(PTAの巡回や業者の点検時に担当者が同行するなど)
		体力の向上	基礎体力の向上につながるよう、授業時にジョギング、補強運動を行う。 定期的に体力向上方法について説明する。	3.0	・体育の授業時にはジョギング、補強運動を共通の内容で実施した。 ・体づくり運動や体育理論、単元の導入で体力向上の方法について説明を行った。 ・自己の体力を踏まえて補強運動を生徒が内容を決め、主体的に取り組めるような指導の工夫を図り、運動習慣の確立につなげていき

特別活動部	重点目標関連	校内外の活動を通して、生徒の自主性・主体性を育む。	各学校行事のねらい、やりがい等を生徒へ周知し、生徒ひとりひとりに役割を与えて主体的に取り組ませる。	2.8	・生徒が栃農祭をはじめ多くの行事で役割にそって活躍していた。その一方で何も役割をこなしていない生徒が一部見られる。 ・学校行事が多いので少し減らす必要があるか。また時期の検討が必要なものもある。
			生徒会役員に学校の代表者としての自覚を持たせ、学校生活を有意義にするために生徒自身の判断・意思で考えて行動させる。	3.0	・生徒会長・副会長以外の生徒会役員は面接で人選したこともあり、主体的また積極的に各活動に取り組む役員が多かった。 ・生徒会役員の人数がまだ多い。 ・あいさつ運動や生徒会新聞などの良い取り組みを生徒主体でできた。
	それ以外の事項	各部活動・同好会の活性化を目指す。	日頃の活動全般において、生徒が主体的に活動できるよう職員が援助・協力する。また、部活動・同好会への加入や各種大会・コンクール等への積極的な参加を促す。	3.2	・運動部・文化部問わず多くの部活動で大会やコンクールに出場して成績を残した。 ・部活動・同好会の加入率が低い。
		危機管理を徹底して各学校行事を実施する。	各種ガイドラインを遵守して各学校行事を計画・実施し、教員間・生徒間の連携を密にする。	2.8	・学校行事等の要項等がなかなか出てこない状態で先に物事が進んでいることが多々あった。 ・栃農祭は規模が大きく、生徒会役員、栃農祭実行委員の力をうまく発揮できていない。連携が必要である。
環境整備部	重点目標関連	学習環境の改善・整備 ※教室、実習室、準備室の整理整頓	下校時に机上、ロッカーに物を置かない状態にし、机、ロッカーを整理させて下校させる。 大掃除の際、窓、ロッカーの後ろ等日頃できない場所の清掃を徹底する。	3.0	・毎日ではないが帰り際の声掛けなどで机上、ロッカーは整理されている。 ・大掃除の際は細かな所もある程度清掃することができた。しかし、普段しない窓掃除の道具などは不足している。
		学習環境の改善・整備 ※施設、設備器具の点検、計画的修繕	清掃用具入れ、ロッカーや下駄箱のフタなど破損した箇所の調査・修繕・整備を行う。 清掃用具の調査、補充を行う。	2.6	・破損に気づいた段階で連絡し、修繕を行う事ができた。 ・清掃用具は倉庫で管理し、不足分はその都度、補充を行っている。
	それ以外の事項	校舎外環境の改善・整備	月に1回、担当エリアの施設設備の点検を行う。 適宜、担当エリアの薬剤散布を実施する。	2.8	・施設設備の点検、担当エリアの薬剤散布の実施を行う事ができた。 ・校舎外担当者の負担が多くなってしまう。
渉外部	重点目標関連	新会長のもと、PTA組織を円滑に運営していく。	会長と連絡を密に取り、本部役員を中心に多くのクラス役員の協力を頂き、進んでPTA活動に参加してもらう。	3.2	・栃農祭等、コロナ前と同じように行事を行うようになった中で、活動も活発になったと思う。 ・連携は取れていたが、一部不十分な面が見られた。さらに連携を密にし、早い段階での対応が必要である。 ・多くの役員の方が協力的に活動し、組織の運営が円滑にできた。
		感染対策を行いながら、各活動を円滑に行い、PTAとして学校教育に協力していく。	感染対策に十分配慮しながら、各PTA活動を検討・実施していく。	3.2	・連携が不十分で行き違いがあったが、最善が尽くされていた。 ・感染症対策に配慮しながら、研修旅行や校内巡回など各行事を実施することができた。
	それ以外の事項	地域連携活動を推進する。	栃農祭や校内マラソン大会に協力するなどして、地域の方々と交流を図り、地域連携を推進する。	3.3	・地域との交流を図ることができた。さらに交流を図るための工夫が必要である。 ・各行事に多くの方が参加し、地域との交流が図れた。
		渉外に関わる各種の事務手続きを滞りなく行う。	PTA・同窓会・教育諸団体の円滑な運営、事務手続きの実施に努める。	3.0	・購買部の運営についてより良いものになるように活動できた。(新商品(パン)の販売、価格の見直しなど) ・各種事務手続きなど円滑に進めることができた。 ・係内またはその周辺で情報を共有し、円滑に進められたと思う。
農場部	重点目標に関する事項	魅力ある授業の実践	①計画的で豊富な実験・実習の実践。②IT・グループ学習など、きめ細やかな指導を通したわかる授業の実践。③授業が社会と生徒の未来像とがつながるよう、農家や専門機関と連携した授業の実践。	3.3	・どの学科においても、豊富な実験・実習の実践があった。しかしながら、計画的でない面もあった。 ・きめ細かな指導が実践できた。しかし、講義の展開においては工夫が必要なケースもある。 ・コロナ禍以降となり、連携した授業実践が多くみられた。
		地域で活躍できるリーダー育成を行う。	①学科の特徴を生かした授業展開の中でリーダーを体験させる。②連携・交流・協働活動を推進し、生徒の主体的な活動の実践。③リーダー・サポーターの両生徒を結果にかかわらず評価する。	3.1	・連携・交流・協働活動が多く実践されたことでリーダー経験ができた生徒が多かった。しかしながら、体験できた生徒が一部に限られたケースもあった。
	それ以外の事項	望ましい農場運営を構築する。	①計画的な予算の執行を行い、生徒の学習が効果的に展開する。②圃場・施設・設備等の整備を進め、望ましい実験実習ができる環境を構築する。	2.9	・計画的な予算執行は概ね達成できた。一部、予算執行が遅れた部門もあった。 ・実験実習ができる環境の整備・維持はできた。しかしながら、施設・設備については課題が残った。
		持続可能な働き方を構築するための、業務改善の推進を行う。	①タイムマネジメントを意識し、効率の良い業務推進を行う。②授業・業務の効果を検証し、コストパフォーマンスを意識する。	2.1	業務改善の意識の高まりは一部の教員に確認できる。しかしながら、4年ぶりの校外活動解禁から、むしろ業務量の増加を感じる教員が多く見られた。

1 学 年	重点 目 標 関 連	基本的な生活習慣確立のための指導	・出席率99%以上を目指す指導。 ・服装容姿、挨拶、返事をしっかりさせる指導。	3.0	・特定の生徒に欠席が多く、他の生徒が影響を受けることが心配されたが、中学と高校との違いを理解させることで欠席が増えないように指導した。 ・挨拶、返事の指導をより強化する必要がある。次第に出来ていない気がする。
		自分から進んで何事にも取り組む姿勢を確立するための指導	・学習する習慣を身につけさせ、欠点を取らないようにさせる指導。 ・まず考えて行動する習慣を身につけさせる指導。	3.0	・特定の生徒が赤点を取っているが、他の生徒はおおむね良好であった。 ・考えて行動できていない生徒が散見される。 ・特定の生徒が、授業に集中できていない様子が散見される。
	それ 以 外 の 事 項	生徒の心身のケアをおこない、生徒個人個人の能力を伸ばす指導	生徒との面談を密にし、関係部署・保護者・関係機関との連携を密にする。	3.3	・心配な生徒に対し、面談等の対応を密に行っていた。 ・担任の先生方が、異変を感じ速やかに対応していた。
			情報の共有をし、学年全体で当たる体制を確立する。	3.3	生徒指導に関する事案等、学年全体で対応できた。
2 学 年	重点 目 標 関 連	自ら進んで何事にも取り組み、挑戦する姿勢を養うための指導	学年、教科、学科、各部との連携を図るなどして、学習、課外活動に積極的に取り組み、成果を上げさせる。	3.1	・学年教科連絡会などの活用を積極的に進め、生徒情報の周知と協力をお願いを徹底した。 ・学科からの情報の吸い上げに苦労する場面があった。
		社会通念に即した基本的な生活習慣を確立するための指導	・行事連絡、指導を徹底することで、メリハリのある行動を促す。 ・TPO(時間・場所・場合)をわきまえた判断・行動を身につけさせる。	3.2	・時間前集合や挨拶の指導を徹底して行い、修学旅行等では遅刻がほぼ無しであった。 ・欠席が多く、連絡がつかない生徒もあり、指導を達成できない場面もあった。
	それ 以 外 の 事 項	進路を常に意識させ、今年度中の早い段階で、将来の方向性を決められるための指導	日常の様々な機会を利用し、進路について考えさせる。	3.1	・夏休みの課題活用や、外部との連携事業を通じて進路意識の向上に繋げることができた。 ・ボランティア活動等や資格取得への参加を促し続け、主体的に取り組む生徒が増えた。
			インターンシップなどを活用し、健全な職業観と各自の将来像について考えさせる。	3.1	・学科の枠組みに関わらず、生徒の希望するインターンシップ先における研修を行うことができた。 ・職業選択のうえで、インターンシップが困難な生徒に関連する事業所を勧めることが難しかった。
3 学 年	重点 目 標 関 連	自分の判断で行動し、進路表現に挑戦するための指導	・自ら考えて行動する習慣を身につけさせる。 ・行動・容姿が、進路決定に適しているかを考えさせる。	2.9	・頭髪・服装、生徒指導・学年指導など、指導を要する生徒が絶えなかった。 ・年度後半になり、指導しなければならない生徒が増え、残念だった。
		社会通念に即した基本的な生活習慣を確立するための指導	・あらゆる場面で「はじめ」「メリハリ」を大事にする。 ・その場その時のTPOをわきまえた判断・行動を身につけさせる。(生きる力)	2.7	・授業や行事など様々な場面で、指導することを心がけ、概ね実施できた。 ・一部の生徒には指導が行き届かず、生活習慣の確立につなげることができなかった。
	それ 以 外 の 事 項	進路決定を第一に考え、そのために何をすべきか考え、行動するための指導	・あらゆる機会を利用して、進路について考えさせる。 ・自己の適性を理解し、自己に合った進路を考えさせる。	2.7	・面接指導など、あらゆる場面で生徒と関わりを持ち、指導に努めた。 ・学科特性をいかした進路指導が十分にはできなかった。

植物科学科	重点目標関連	学校パンフレットに示されている「地域活性化」「グローバル」「育てるって楽しい!!」などに沿った教育活動を展開する。	講義中心の授業にならないよう工夫し、「育てる経験」や「地域連携」を実践で学べるよう魅力ある授業の展開をする。	3.3	・外部との連携や講話・演習を通して、授業内容がより活動的で活発になった。 ・栃木市役所をはじめ来年度も継続予定の地域連携活動を実施できた。
		3年生を中心に、始業前や放課後に農作物の管理や観察を定期的に行うことによって、物事に継続して取り組む力を身につける。	土地利用生産コース(作物・果樹)と園芸植物コース(野菜・草花)の選択生は、各担当教員の指示のもと収穫作業や生育調査などを行う。	3.0	・管理・調査等についてコース・部門によって温度差がある。 ・計画的に取り組むことができた生徒と今後指導が必要な生徒とが見られた。
	それ以外の事項	生徒の活動を校外へ発信し、本校のPR活動を盛んにする。	各部門(作物・果樹・野菜・草花)、毎月1回はホームページを更新し、校外へ情報を発信する。	2.3	・課題研究の一部として生徒とともにHP更新ができた。 ・月に1度程度、課題研究の内容やイベントの情報を発信することができた。
		規律の遵守、基本的な行動ができるよう指導し「安心安全な農産物」を生産する管理体制づくりにつとめ、職員・生徒とともに生産者としての意識を高める。	生徒の作業服の着こなし等を指導し、事故防止や商品の異物混入などの防止につとめ、管理体制の重要性や生産者としての意識の大切さを学習させる。	2.3	・意識が高まるようになってきた。一部の生徒については今後も継続的に指導が必要である。 ・学年が上がるにつれ、手を抜く生徒が増える傾向も見られる。2年生からの指導が重要。 ・作業時の服装が一部徹底できなかった。
動物科学科	重点目標関連	魅力ある授業の実践	・授業の充実を図るため、校外への取り組みを検討する。 ・農家や専門機関、上級学校と連携した授業を実施する。 ・PDCAサイクルを実践した授業の展開	3.5	・高度化事業やキャリア形成事業を活用して学校で学ぶことができない乳牛の飼育や超音波診断の方法を学習させることができた。 ・動物愛護センターの方との交流や動物園視察研修を通して授業の展開を広めることができた。
		進路実現に向けた、校内体制の構築	・科内職員で協力し、進路希望に応じた進路指導の充実を図る。(3年生) ・インターンシップを円滑に実施する。(2年生) ・進路意識を高める行事を開催する。(1年生)	3.3	・科内で協力し進路指導を行うことができた。 ・事前にアンケートで希望を確認することで、インターンシップの受け入れ先を探す手立てを教員間で協力して取り組むことができた。
	それ以外の事項	資格取得の推進	・各学年で計画的に資格取得の指導をし、生徒たちへ成功体験を積ませる。 ・アグリマイスター顕彰制度を活用する。	2.7	希望者で行う資格への参加者が少なく、成果を上げることができなかった。今後、告知の方法も検討していきたい。
		学科の広報	・HPを積極的に更新し、学科の情報を外部に発信する。 ・校外の方々と交流を持ち、学科をPRする。	3.3	科内行事やイベントに合わせてHPを更新することができた。また、新たに中学校や小学校と動物や食育を通じた交流教育を行い、学科のPRに繋げることができた。
食品科学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底	実習服の着こなしについての指導を徹底するとともに、自ら率先して衛生管理に基づいた行動ができるよう指導する。	2.8	特定の生徒に忘れ物が多く、指導しているが改善が見られない時があった。実習服から髪やシャツが出ている際には、細かく注意し実習に入る前に身なりを整えさせることができた。
		専門的知識の定着を図り、わかる授業を展開する	(1)座学と連携させ、基礎的な内容の実験や実習を実施する。 (2)生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践するために、教材研究を充実させる。	3.0	生徒に分かりやすく説明・指導したつもりでも、思うような成果が得られない時もあった。今後は、更に意欲を持って授業に取り組めるような指導や教材研究を行っていきたい。
	それ以外の事項	進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	3.0	教回行った事のある実習では、全てを指示するのではなく生徒が自ら進んで仕事を見つけられるように促した。インターンシップの事前・事後には、職業人としての姿勢について指導する機会を設けることができた。
		コミュニケーション能力の醸成	グループワークや地域交流活動等に参加し、体験交流の機会や他の意見に触れる機会を設ける。	2.8	保育園交流やキャリア支援教育など、外部の方々と触れる機会があり、その都度生徒にも意識づけを行うことができた。今後はマルシェや学外での活動への積極的参加も促していきたい。
環境デザイン科	重点目標関連	学習意欲の向上と専門的知識・技術の定着	(1)専門学習への興味・関心・理解を高める授業を展開し、資格取得率の向上と専門的な進路選択を増やす。 (2)実習服などの身だしなみや道具の取扱、安全管理など、自主的に判断し、行動に移せるように指導していく。	3.2	・土木・建設業等の専門分野に就職、進学する生徒(下級生は希望も含む)が増えた。 ・意欲的に学ぼうとする生徒が増やすことができた。 ・身だしなみや道具の取り扱い等の安全管理の意識が徐々に高まり、自主的に正しい判断と行動に移せるようになってきた。継続指導が重要である。
		環境デザイン科ならではの魅力ある活動の実践と発信	(1)SDGsや地域連携に専門的な学習を関連させて学科の対外的な活動を増やす。 (2)日々の学習内容や校外活動などをHP等を通じて地域へ発信する。	3.0	研修やプロジェクト活動等の学習を中心に、マスコミやHP等を使って学校外への発信はできた。より日常的な内容や地域連携の内容を地元メディアに発信していきたい。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	(1)地域連携活動や資格取得など、生徒が自主的に取り組めるような仕組み・仕掛けを構築する。 (2)学科の学習内容を活かし、各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に取り組む。	2.0	3年生を中心として自主的に取り組むことができる生徒が増えているが、1・2年生は働きかけが少ないためこれまで応募していたコンクール等への応募生徒が少なかった。また、専門分野での資格取得が振るわなかった。
		カリキュラムデザインや教材などの評価並びに再検討	(1)専門学習の進め方や関係機関との連携方法について、詳細な準備を進めたり、これまで実施した内容について振り返りを行う。 (2)教材や施設・設備の準備・計画などを進め、適宜再検討も行う。	2.8	・新課程での完成に向けて試行錯誤を繰り返しながら、教材等の再検討等を進めることができた。 ・外部との連携も踏まえ今後も継続できるよう課題と改善策を洗い出していきたい。